

# 伊勢・三河湾流域圏のサステナビリティを学ぶ

## 中部サステナ政策塾の取り組み

### 中部サステナ政策塾とは？

目的：広義のポリシーメーカー育成！



塾生募集のチラシ

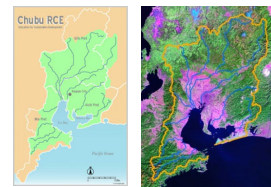
持続可能な社会のための政策立案・提言ができる人材をポリシーメーカーといっています。政策塾では、サステナブルな社会づくりのためのポリシーメーカーを目指す若者の育成をおこなっています。具体的に目指すところまでいかななくても、まずは、異なる立場・分野の人との交流も目的のひとつとしています。

沿革：2016年にSDGsと共に開始！



中部サステナ政策塾は、国連大学認定「中部ESD拠点協議会」（幹事機関：中部大学）が主催する人材育成プロジェクトです。2016年度から、20～30代の若者を対象に、サステナビリティに関する政策を学ぶ講座を実施しており、今年度で第8期となります。

対象地域：伊勢・三河湾流域圏！



中部ESD拠点では、伊勢湾と三河湾に注ぎ込む河川の流域全体を伊勢・三河湾流域圏と呼び、活動対象地域としています（愛知・岐阜・三重県とほぼ一致）。政策塾は、東海3県でSD活動を実施しているNPOリーダーや教育者等を講師とした講座の実施や、流域圏におけるフィールドワークをおこなっています。

### 第8期テーマ「巨悪を眠らせない！」

#### 1. 第1回講座



現在の世界が抱える環境問題という課題について世界的な情勢を踏まえて学ぶことができました。他国では環境問題に対する訴訟が頻繁に起き、国や行政に対する問題提起がされるなか、日本では訴訟の件数も少なく、国・民間ともに環境問題への向き合いが未熟な現実。そして自分もまた、環境問題を深刻には捉えていなかったということに気づかされました。一個人としてできることは多くはないけれど、少しでも何か貢献できることはないか、考えるきっかけになりました。

現在の世界が抱える環境問題という課題について世界的な情勢を踏まえて学ぶことができました。他国では環境問題に対する訴訟が頻繁に起き、国や行政に対する問題提起がされるなか、日本では訴訟の件数も少なく、国・民間ともに環境問題への向き合いが未熟な現実。そして自分もまた、環境問題を深刻には捉えていなかったということに気づかされました。一個人としてできることは多くはないけれど、少しでも何か貢献できることはないか、考えるきっかけになりました。

#### 2. 第2回講座



悪影響が出ていること。また、数十年後には手に入りにくい食品が増えるという懸念が生まれていることもあるようです。気候変動は、全ての繋がりを持っていて、いざ私たちに影響を与えるということが悪なのだ学びました。

気候変動によって、我々が普段食べているものに変化が起きていることを学びました。年々暑くなることで、私たちの身体への影響だけでなく生態系にも、悪影響が出ていること。また、数十年後には手に入りにくい食品が増えるという懸念が生まれていることもあるようです。気候変動は、全ての繋がりを持っていて、いざ私たちに影響を与えるということが悪なのだ学びました。

#### 3. 第3回講座



第3回講座では「サステナビリティを阻害するものは？」をテーマに、弁護士で一般社団法人JELF（日本環境法連盟）事務局長である小島寛司氏を講師として『「アンモニア混焼」はグリーンウォッシュ？』のワークショップを開催しました。石炭火力発電所からのCO<sub>2</sub>排出量の多い愛知県内において、企業などが脱炭素の選択肢として「アンモニア混焼」を提唱していますが、その効果への疑問や、再生エネルギーを進めるヨーロッパの事例などが紹介され、改善へのアプローチについて議論しました。

第3回講座では「サステナビリティを阻害するものは？」をテーマに、弁護士で一般社団法人JELF（日本環境法連盟）事務局長である小島寛司氏を講師として『「アンモニア混焼」はグリーンウォッシュ？』のワークショップを開催しました。石炭火力発電所からのCO<sub>2</sub>排出量の多い愛知県内において、企業などが脱炭素の選択肢として「アンモニア混焼」を提唱していますが、その効果への疑問や、再生エネルギーを進めるヨーロッパの事例などが紹介され、改善へのアプローチについて議論しました。

### 伊勢・三河湾流域圏フィールドワーク「土岐・庄内川流域圏」

#### 1. 上流域の学び！



庄内川上流である岐阜県恵那市、瑞浪市へ向かい、瑞浪市化石博物館、瑞浪市陶磁資料館、岩村醸造などへ訪問しました。生物、特産物、地域資源など多様な視点から流域について学びを得ました。中でも陶磁資料館館長による陶器をめぐる庄内川流域の関係性についてのお話、恵那市にお住まいの駒宮博男氏宅へ伺い、三郷町の魅力や自治体の課題、基盤的な経済学について貴重なお話を頂戴することが印象に残っています。

庄内川上流である岐阜県恵那市、瑞浪市へ向かい、瑞浪市化石博物館、瑞浪市陶磁資料館、岩村醸造などへ訪問しました。生物、特産物、地域資源など多様な視点から流域について学びを得ました。中でも陶磁資料館館長による陶器をめぐる庄内川流域の関係性についてのお話、恵那市にお住まいの駒宮博男氏宅へ伺い、三郷町の魅力や自治体の課題、基盤的な経済学について貴重なお話を頂戴することが印象に残っています。

#### 2. 中流域の学び！



中流域では高蔵寺サイホン、中部大学恵那キャンパス、野田農場、才井戸流、三階橋などを巡り流域の上流から下流までのつながりを五感で感じることができました。特に、名古屋守山区志段味に位置する才井戸流湧水地では実際に湧水が湧き出る様子を見ることができ感動しました。流域の水の流れのように多様な課題は繋がりがあって様々な立場や専門分野の人たちがお互いに知恵を出し合い議論することの大切さをフィールドワークを通じて改めて感じました。

中流域では高蔵寺サイホン、中部大学恵那キャンパス、野田農場、才井戸流、三階橋などを巡り流域の上流から下流までのつながりを五感で感じることができました。特に、名古屋守山区志段味に位置する才井戸流湧水地では実際に湧水が湧き出る様子を見ることができ感動しました。流域の水の流れのように多様な課題は繋がりがあって様々な立場や専門分野の人たちがお互いに知恵を出し合い議論することの大切さをフィールドワークを通じて改めて感じました。

#### 3. 下流域の学び！



2002年にラムサール条約に登録されました。ビクターセンター等の資料館を訪れるとその生物多様性に驚きますが、いざ遠巻きに見てもそんなに多様な生物の姿は確認できません。裏を返せばこれは、人間の目に見えない所に多様な生物がいるという教訓であり、他の景勝地もそのような視点で見ることが必要です。

かつてゴミ処分場へすべく埋め立てられそうになった藤前干潟は、自然保護の重要性とゴミ減量の必要性を私達に認識させ、その後間もない2002年にラムサール条約に登録されました。ビクターセンター等の資料館を訪れるとその生物多様性に驚きますが、いざ遠巻きに見てもそんなに多様な生物の姿は確認できません。裏を返せばこれは、人間の目に見えない所に多様な生物がいるという教訓であり、他の景勝地もそのような視点で見ることが必要です。

### 開催テーマ『巨悪を眠らせない!』

今年度の中部サステナ政策塾では、「SDGs達成のためのポリシー」をテーマにして、社会の諸課題に対し、社会の仕組みや政策を学びながら、広い意味の「ポリシーメーカー」の育成をめざします。政策塾では、立場の異なる様々な若者（企業人、行政官、政治家、活動市民、教育者、大学生など）が集い、有識者の講演の聴講やワークショップ等を通じて、持続可能な社会づくりの担い手ネットワークが広がります。ここでいうポリシーとは、政治や行政に関わる政策だけではなく、起業家やNPOのプロジェクト立案や推進方策なども含みますので、様々な分野からの応募をお待ちしています。



主催団体：中部ESD拠点協議会（RCE Chubu）

住所：〒487-8501  
愛知県春日井市1200番地  
国際ESD・SDGsセンター内  
Tel：0568-51-4485  
Fax：0568-51-4736  
E-mail:mokajima@office.chubu.ac.jp